

# 循環器疾患の発症リスク別における健康関連コストの比較

## > 目的

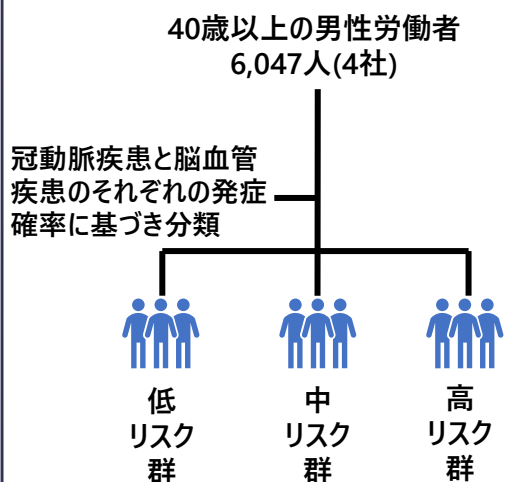
職域での循環器疾患予防対策に注力されている中、循環器疾患の発症リスクと、医療費、アブゼンティーズムによる損失、プレゼンティーズムによる損失に関係性があるか調査する。

## > 方法

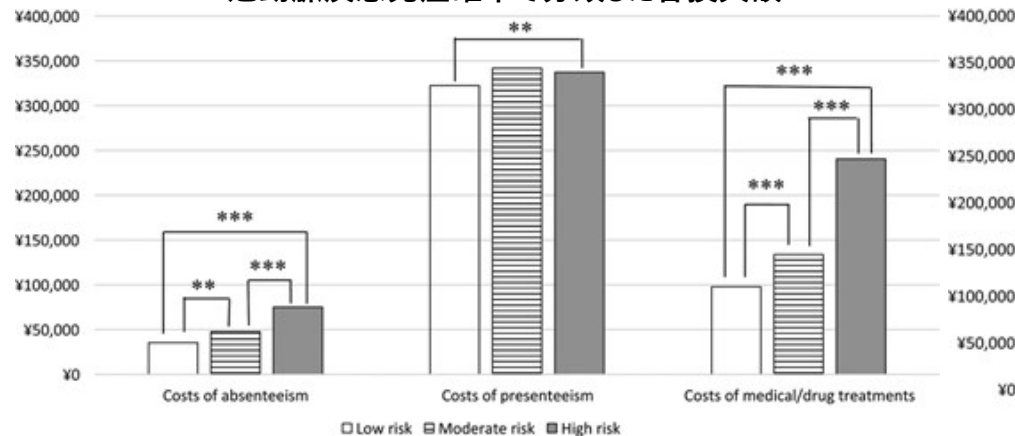
冠動脈疾患と脳血管疾患のそれぞれの10年以内の発症確率に基づき、対象者を低リスク群、中リスク群、高リスク群に分類した。人的資本法に基づき、各群の一人当たりの年間の医療費、アブゼンティーズムによる損失額、プレゼンティーズムによる損失額を算出し、Kruskal-Wallis検定とBonferroni補正後Mann-Whitney U検定を行った。

## > 結果

アブゼンティーズムによる損失額と医療費は、低リスク群、中リスク群、高リスク群の順に損失額が増加した一方で、プレゼンティーズムによる損失額は増加を認めなかった。また、どの群においてもプレゼンティーズムによる損失額が最も多かった。

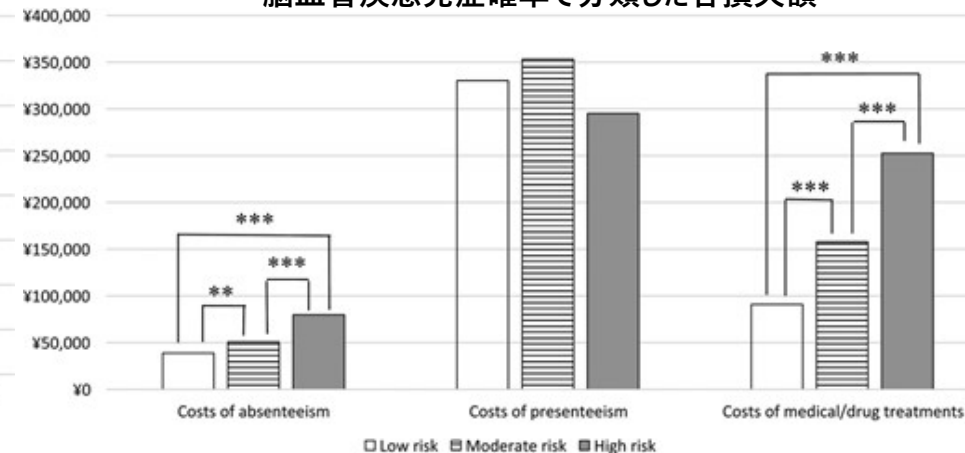


冠動脈疾患発症確率で分類した各損失額



\*\*P < .01; \*\*\*P < .001

脳血管疾患発症確率で分類した各損失額



\*\*P < .01; \*\*\*P < .001

医療費やアブゼンティーズムによる損失とは異なり、プレゼンティーズムによる損失を防ぐためには、循環器疾患発症リスクが高い労働者へのアプローチに注力するばかりではなく、低・中リスクにある労働者に対しても別のアプローチを検討していくことが重要である。